

名抄に菴蘆子を訓ずれど、別物なるべし。三月三日の雛遊には、ふこを祭り、此日鼠麴汁にて糕を造る事も、文徳實錄に見え、龍舌料といふも、荆楚歲時記に出たれば、此草をもは、こ草とよべる成べし。よて又もちよもぎともいふとぞ、今はもはら艾蒿を用う、遠江にち、ぐさ、信濃にかはちちこ、尾張にとうこ、上總にかうじばな、宇都宮にねばりもちといふ、俗に河原は、こと呼ものは白蒿なり、和名抄に白蒿一名繁幡蒿と見えたれば、此音をもては、こと呼にや。

〔重修本草綱目啓蒙〕十一鼠麴草 ハ、コ草 母子草ト書ク、文徳實錄ニ見タリ、古 モチヨモギ和

草 本 ジヤウラウヨモギ同上 オギヤウト書ス、後世誤リ唱ヘテゴギヤウ トウコ尾州

トウゴ同上 モチバナ豊後 モチプツ肥前 ウカジプツ同上 ゴギヤウプツ筑前 ゴギ

ヨブツ九州 ゴギヤウヨモギ同上 トノサマヨモギ紀州 トノサマタバコ花ヲ云、カハ

チ、コ信州 コウジバナ讚州 ツバミグサ佐州 子バリモチ野州 モチグサ防州 中略

此草原野ニ多アリ、秋月苗ヲ生ズ、葉ハ馬齒莧葉ニ似テ薄ク、長クシテ白毛アリ、三四月苗高サ六七寸或ハ一尺ニ至ル、葉互生シ、梢ニ簇リテ黄花ヲ開ク、此花ヲ取り烟草ニ代吸フ、又此花ヲ以テ芫花ニ僞リ、又蜜蒙花ニモ僞ル、古ハ上巳ニ此葉ヲ用テ塗トス、即龍舌料ナリ、後其色ノ濃カラシコトヲ欲シテ、艾葉ヲ以テ代ユ、朝鮮賦ニ謂ユル艾糕ナリ、今ハオホハカラシ皺葉芥葉ヲ加テ其色ヲタスク、益其眞ヲ失ス。

〔宜禁本草〕乾菜鼠麴草 甘平無毒、雜米粉作糗食之、甜美、白毛調中益氣、止瀉除痰、歷時氣去熱嗽、

〔延喜式〕三十九供奉雜菜

日別一斗、略中波々古五升、二三

〔文徳實錄〕嘉祥三年五月辛巳、嵯峨太皇太后崩、壬午、先是民間訛言云、今茲三月、○三月二字原

三日不可造饗、以無母子也、識者聞而惡之、至于三月、宮車晏駕、是月亦有太后山陵之事、其無母子、遂